

史跡 亀ヶ岡石器時代遺跡

亀ヶ岡石器時代遺跡（紀元前約 1,000 年）の発掘活動では、縄文時代（紀元前 13,000 年～紀元前 400 年）の最も有名な陶器の一部も発見されています。これらの製作物は、人々が土器の進んだ技術に通じていたことを示すものであり、デザインのセンスが高度に発達していたことを伝えるものです。この遺跡で発見された陶器が由来の「亀ヶ岡式」とは、北部日本で縄文時代後半に作られた陶器を指す言葉です。東京国立博物館、大英博物館、メトロポリタン美術館など、世界の代表的な博物館・美術館の多くが、亀ヶ岡式土器を所蔵しています。

芸術と精神性

発掘により、土器が埋められた土坑墓と祭祀の場が多く集中していることが明らかになりました。磨き上げられた土器、光沢のあるヒスイ玉、漆器、食物繊維で編んだ物、精巧な頭飾りを付けた眼鏡のような目の中空土偶など、墓穴や遺跡の随所からは様々な埋蔵物が見つかっています。このような装飾品が捧げられ埋められているということは、縄文晩期の社会が、複雑な祭祀を行い発達した精神世界を持つ進化した社会であったことを示唆しています。

複数の集落で使われていた墓地遺跡

紀元前 1,500 年～紀元前 400 年、埋葬地は集落の外に作られ、複数の集落で共有されるようになりました。また、儀式を行う場所とは分けられるようになりました。以前の集落（紀元前 3,000 年～紀元前 2,000 年）と比較して、集落の規模が小さく分散型になる中、このような発展がありました。亀ヶ岡石器時代遺跡は複数の集落で使用されていたと考えられており、縄文時代末期の独立型埋葬地の例となっています。

隣接する関連遺跡

亀ヶ岡石器時代遺跡には、いくつかの表示板と、大規模な眼鏡のような目をした土偶の像があります。田小屋野貝塚 [\[リンク\]](#) が近くにあり、歩いて 15 分程度で着きます。つがる市縄文住居展示資料館カルコ [\[リンク\]](#) と、つがる市木造亀ヶ岡考古資料室 [\[リンク\]](#) には、亀ヶ岡石器時代遺跡およびこの地域にあるその他の縄文遺跡からの出土品が展示されています。かなり離れた八戸には、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館があり、是川石器時代遺跡で発見された亀ヶ岡式土器が展示されています。